

青森県経済統計報告

平成 22 年 11 月 4 日
企画政策部統計分析課

1 本県の経済動向（平成 22 年 8 月・9 月の経済指標を中心として）

（1）経済概況

本県経済は、雇用面・消費面の一部に弱さが残るものの、生産面に改善の動きが続いている。

（2）主要経済指標の動向

- (2-1) 製造業の生産動向 平成 22 年 8 月の青森県鉱工業生産指数(平成 17 年=100)は、季節調整済指数が 104.3 で、前月比 3.0%の低下となり、2 ヶ月ぶりに前月を下回った。また、原指数は 98.0 で、前年同月比 10.2%の上昇となり、9 ヶ月連続で前年同月を上回った。 … 1
- (2-2) 雇用情勢 平成 22 年 8 月の定期給与は 221,192 円で前年同月比 3.2%増となった。総実労働時間は 154.6 時間で前年同月比 1.0%増、所定外労働時間は 9.6 時間で前年同月比 14.4%増となった。平成 22 年 9 月の有効求人倍率(季節調整値)は 0.38 倍で、2 ヶ月連続で同数値となった。 … 2
- (2-3) 物 価 平成 22 年 9 月の青森市消費者物価指数(平成 17 年=100)は、総合指数が 99.6 となり、前月と比べ 0.4%の上昇、前年同月と比べ 1.3%の下落となった。 … 3
- (2-4) 個人消費 平成 22 年 8 月の大型小売店販売額は、全店舗ベースが 148 億 700 万円で前年同月比 0.5%増となり、2 ヶ月ぶりに前年同月を上回った。また、既存店ベースでは 0.5%増となり、2 ヶ月ぶりに前年同月を上回った。平成 22 年 9 月の軽自動車を含めた乗用車新車登録・届出台数は 3,966 台で、前年同月比 5.2%減となり、14 ヶ月ぶりに前年同月を下回った。 … 4
- (2-5) 住宅建設 平成 22 年 9 月の新設住宅着工戸数は 506 戸で、前年同月比 11.5%増となり、2 ヶ月連続で前年同月を上回った。 … 5
- (2-6) 電 力 平成 22 年 9 月の大口電力使用量は 2 億 1,600 万 kWh で、前年同月比 17.5%増となり、9 ヶ月連続で前年同月を上回った。 … 5

（3）景気動向指数（平成 22 年 8 月分） …… 6

先行指数	55.6% (6か月連続で50%を上回った)
一致指数	87.5% (6か月連続で50%を上回った)
遅行指数	50.0% (2か月ぶりに50%を上回った後50%となった)

（4）青森県景気ウォッチャー調査（平成 22 年 10 月期） …… 7

- 3 ヶ月前と比べた景気の現状判断 D I …… 42.4 (前期比 3.1 ポイント減、13 期連続で 50 を下回る)
- 3 ヶ月後の景気の先行き判断 D I …… 43.9 (前期比 1.0 ポイント減、2 期連続で 50 を下回る)

※青森県の推計人口（平成 22 年 10 月 1 日現在）につきましては、現在、平成 22 年国勢調査の要計表速報値を集計中であり、12 月上旬に公表する予定となっております。

1 本県の経済動向

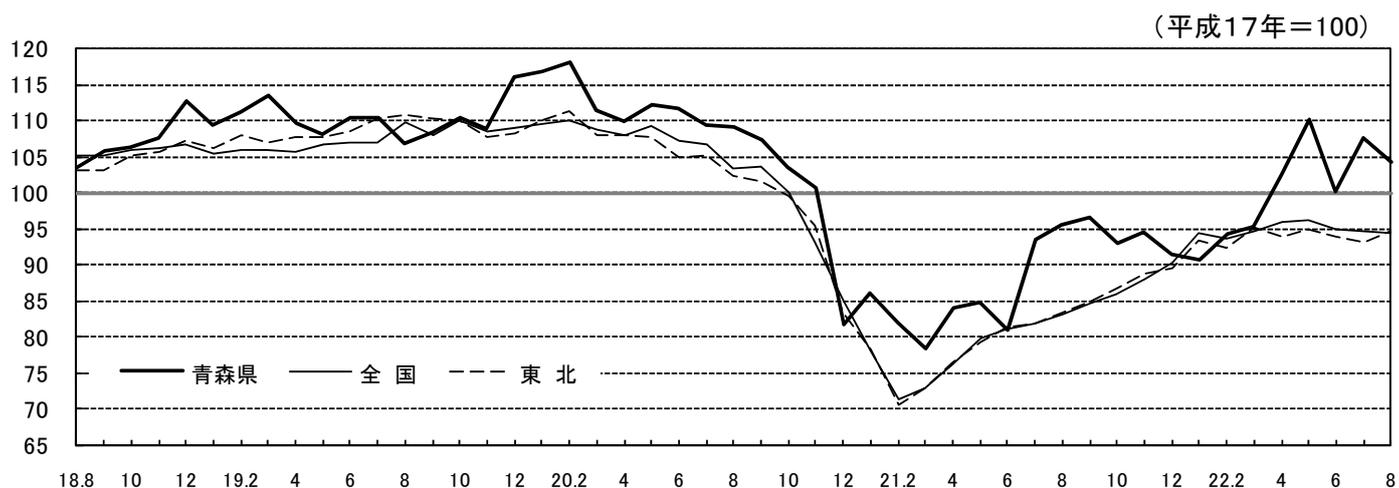
(2) 主要経済指標の動向

(2-1) 製造業の生産

平成22年8月の青森県鉱工業生産指数（平成17年=100）は、季節調整済指数が104.3で、前月比3.0%の低下となり、2ヶ月ぶりに前月を下回った。また、原指数は98.0で、前年同月比10.2%の上昇となり、9ヶ月連続で前年同月を上回った。

季節調整済指数で前月からの動きをみると、パルプ・紙・紙加工品工業、一般機械工業、鉄鋼業などが上昇に寄与した一方、食料品工業、家具工業、金属製品工業などが低下し、鉱工業全体では3.0%の低下となった。

青森県・全国・東北の鉱工業生産指数推移（季節調整済指数）

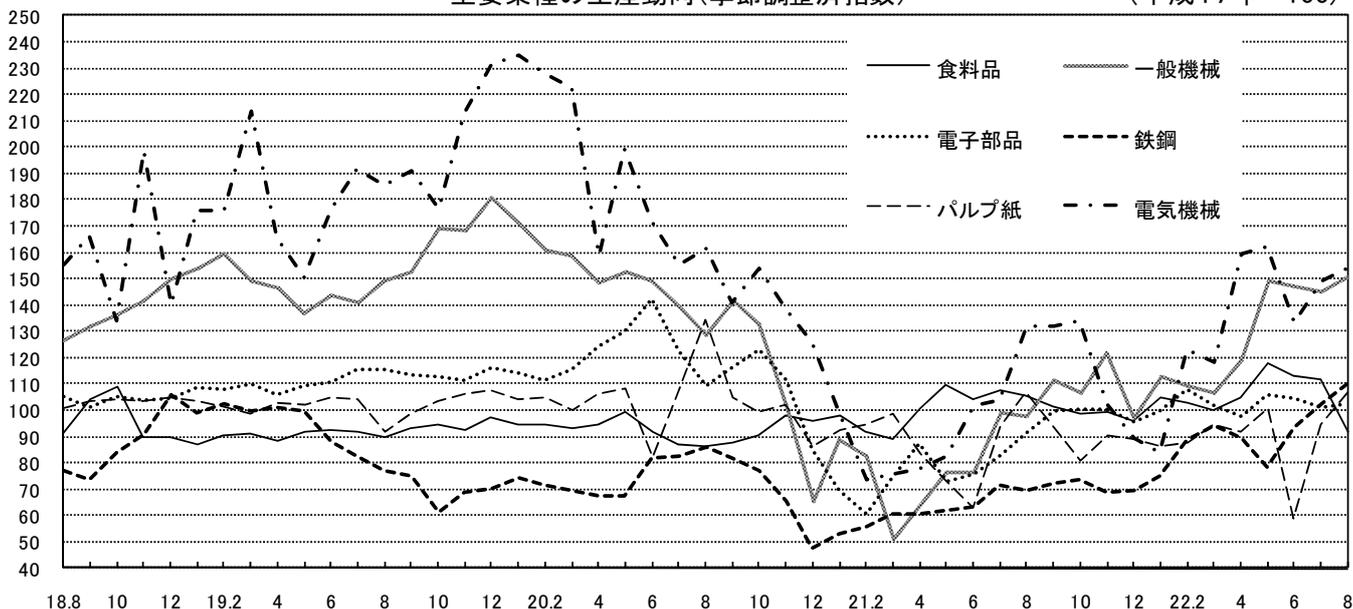


◎業種別動向（前月比） 鉱工業全体 -3.0%

プラス			マイナス		
業種	前月比(%)	寄与率(%)	業種	前月比(%)	寄与率(%)
パルプ・紙・紙加工品工業	12.5	36.6	食料品工業	-18.0	-172.1
一般機械工業	4.1	28.2	家具工業	-73.6	-22.6
鉄鋼業	7.1	28.0	金属製品工業	-5.6	-11.4
電気機械工業	3.4	10.7	精密機械工業	-8.6	-8.2
電子部品・デバイス工業	1.3	5.5	非鉄金属工業	-6.5	-5.3

主要業種の生産動向(季節調整済指数)

(平成17年=100)



資料：県統計分析課「青森県鉱工業生産指数（速報）」

(2-2) 雇用情勢

平成22年8月の定期給与は221,192円で定期給与指数(平成17年=100)では96.1となり、前年同月比3.2%増(現金給与総額233,563円、現金給与総額指数85.6、前年同月比1.4%増)となった。実額で比較した定期給与の全国対比は84.3となった。

総実労働時間は154.6時間で、総実労働時間指数は97.0となり、前年同月比1.0%増となった。このうち、所定外労働時間は9.6時間で、所定外労働時間指数は97.0となり、前年同月比14.4%増となった。

平成22年9月の有効求人倍率(季節調整値)は0.38倍で、2ヶ月連続で同数値となった。



賃金及び労働時間の動き(調査産業計、事業所規模5人以上)

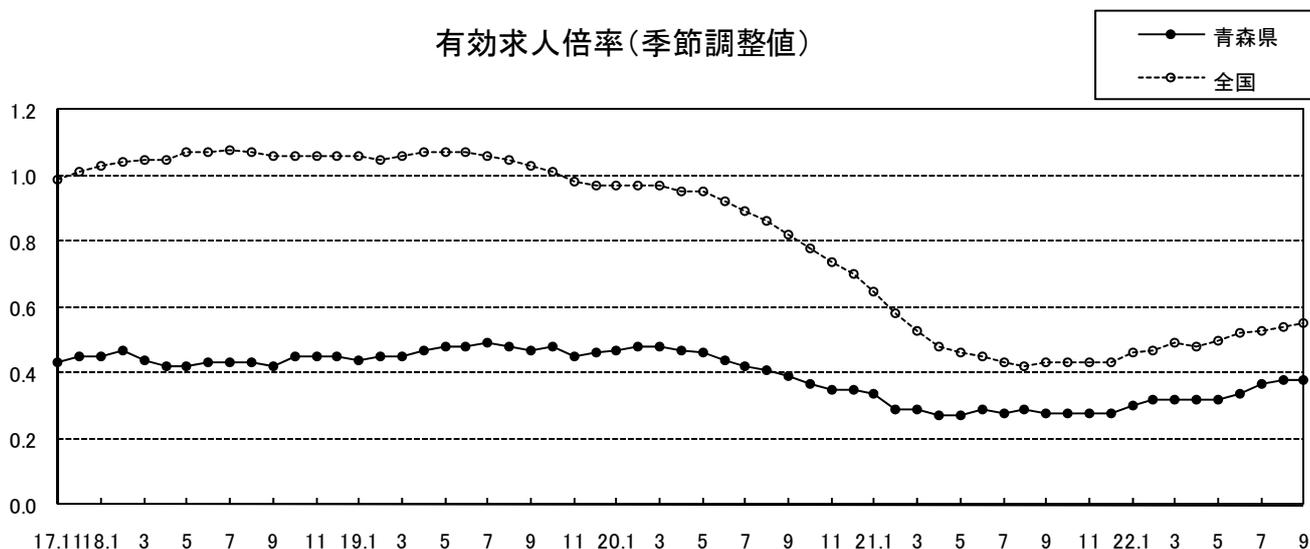
	実 数		指数(H17=100)		対前年同月増減率	
	県	全 国	県	全 国	県	全 国
現金給与総額	233,563 円	275,060 円	85.6	83.0	1.4 %	0.4 %
定期給与	221,192 円	262,525 円	96.1	97.1	3.2 %	0.4 %
特別給与	12,371 円	12,535 円	—	—	—	-4.2 %
総実労働時間	154.6 時間	144.3 時間	97.0	95.7	1.0 %	1.9 %
所定内労働時間	145.0 時間	134.5 時間	97.1	96.0	0.4 %	1.4 %
所定外労働時間	9.6 時間	9.8 時間	97.0	92.5	14.4 %	10.1 %

(注)1.定期給与とは「きまって支給する給与」のことである。

2.前年同月比は指数によって算出している。

3.平成22年1月分から、平成19年11月改訂の日本標準産業分類に基づいて結果の公表をしています。

資料:県統計分析課「毎月勤労統計調査結果(速報)」



資料:青森労働局職業安定部職業安定課「職業安定業務取扱月報」

(2-3) 物価

平成22年9月の青森市消費者物価指数(平成17年=100)は、総合指数が99.6となり、前月と比べ0.4%の上昇、前年同月と比べ1.3%の下落となった。

生鮮食品を除く総合指数は98.8となり、前月と比べ0.1%の下落、前年同月と比べ1.7%の下落となった。

食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合指数は95.7となり、前月と同水準、前年同月と比べ2.4%の下落となった。

総合指数が前月と比べ0.4%の上昇となった内訳を寄与度でみると、食料、被服及び履物などの上昇が要因となっている。

総合指数が前年同月と比べ1.3%の下落となった内訳を寄与度でみると、教育、家具・家事用品などの下落が要因となっている。

なお、授業料等(高校授業料無償化影響)を除く総合指数は100.5となり、前月と比べ0.4%の上昇、前年同月と比べ0.3%の下落となった。

図1 総合指数の動き

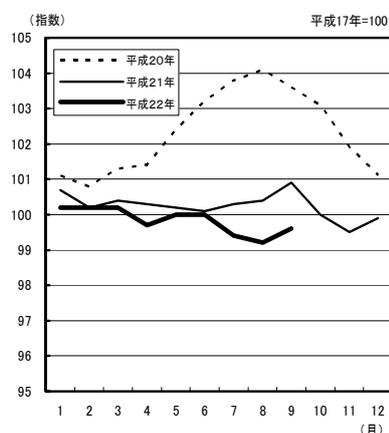


図2 生鮮食品を除く総合指数の動き

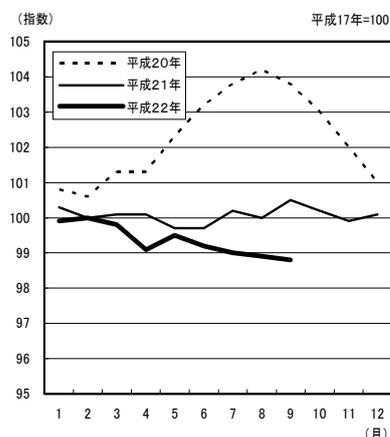
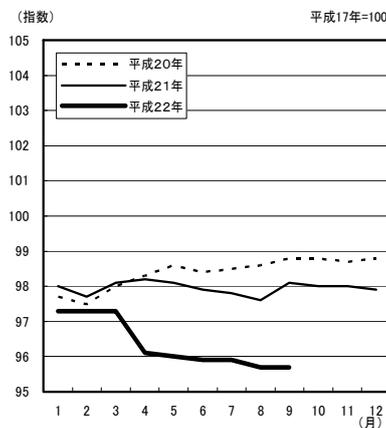


図3 食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合指数の動き



10大費目指数の動き

(平成17年=100)

	総合	生鮮食品を除く総合	持家の 帰属家賃を除く総合	食料(酒類を除く)及び エネルギーを除く総合	食料	生鮮食品	住居	光熱・水道	家具・家事用品	被服及履物	服医	健康	交通・通信	教育	教養	諸雑費
当月指数	99.6	98.8	100.1	95.7	103.8	113.6	97.9	109.0	89.6	102.8	97.7	98.7	72.9	92.7	101.0	
前月比(%)	0.4	▲0.1	0.5	0.0	1.4	7.8	▲0.1	0.2	▲0.2	3.9	0.1	▲1.0	0.0	▲0.7	0.0	
寄与度	0.40	▲0.10	0.42	0.00	0.41	0.47	▲0.02	0.02	▲0.01	0.16	0.00	▲0.11	0.00	▲0.07	0.00	
前年同月比(%)	▲1.3	▲1.7	▲1.3	▲2.4	▲0.1	5.6	▲0.8	2.3	▲6.5	1.2	▲0.1	▲0.9	▲28.6	▲1.4	▲0.7	
寄与度	▲1.29	▲1.59	▲1.08	▲1.51	▲0.03	0.34	▲0.16	0.24	▲0.19	0.05	▲0.00	▲0.10	▲0.88	▲0.13	▲0.04	

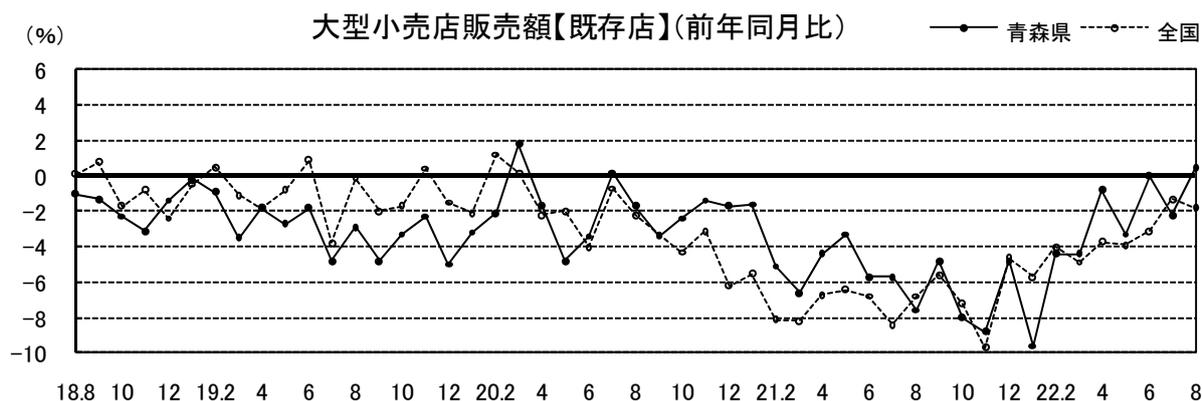
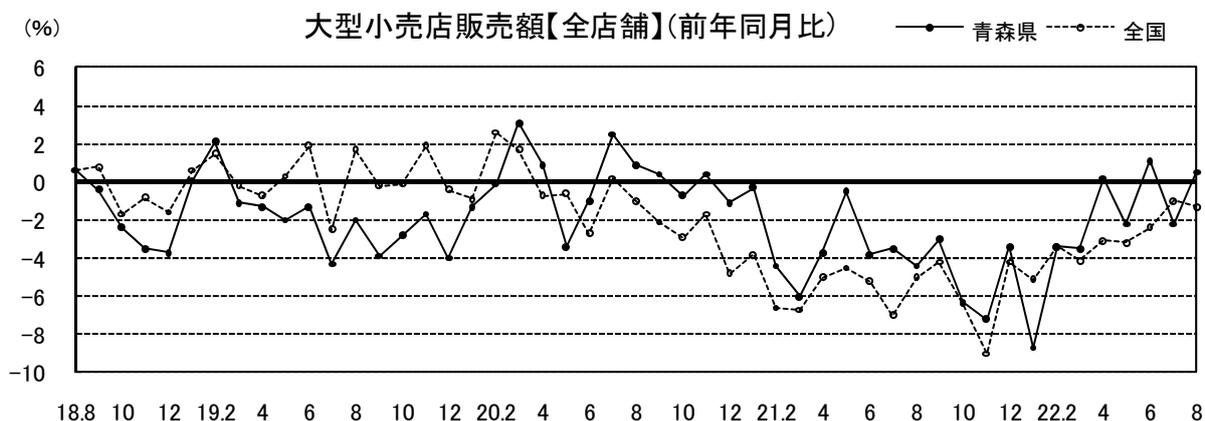
資料：県統計分析課「消費者物価指数月報」

※ 寄与度とは、ある費目の指数の変動が、総合指数の変化率のうち何ポイント寄与したかを示したものであり、全費目の寄与度を合計すると、総合指数の変化率に一致する。

(2-4) 個人消費

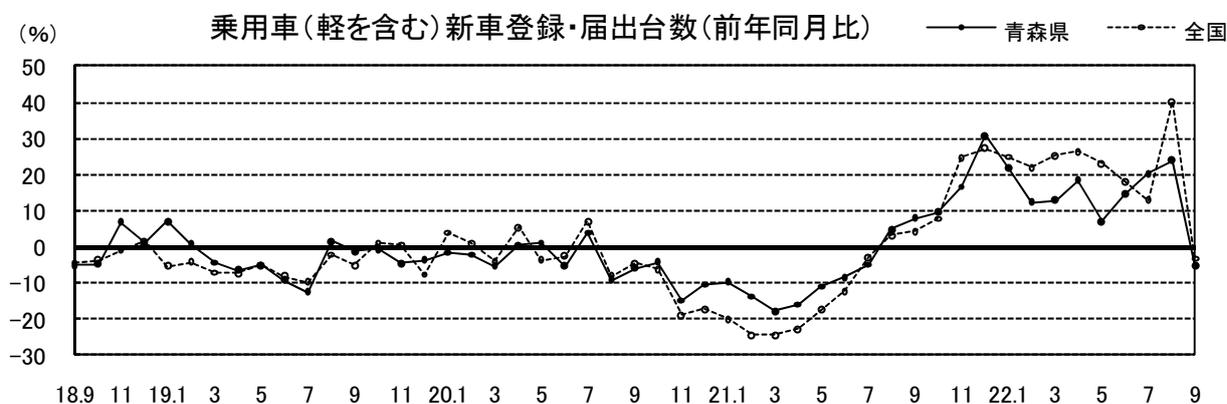
平成22年8月の大型小売店販売額は、全店舗ベースが148億700万円で前年同月比0.5%増となり、2ヶ月ぶりに前年同月を上回った。また、既存店ベースでは0.5%増となり、2ヶ月ぶりに前年同月を上回った。飲食料品、衣料品などが好調であったことによる。

平成22年9月の軽自動車を含めた乗用車新車登録・届出台数は3,966台で、前年同月比5.2%減となり、14ヶ月ぶりに前年同月を下回った。普通車が増加したものの、小型車、軽乗用車が減少したことによる。



資料：東北経済産業局「東北地域大型小売店販売額動向」

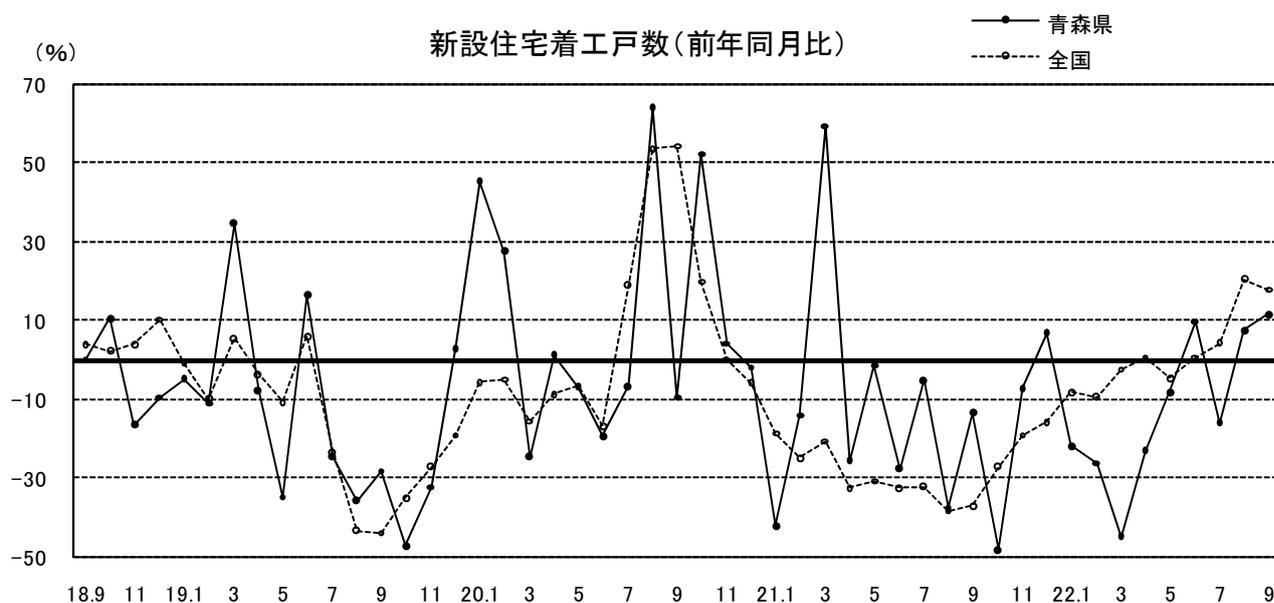
* 大型小売店は従業員が50人以上で売場面積が1,500平方メートル以上の商店をいう。そのうち、既存店とは、当月及び前年同月とも調査の対象となっている商店をいう。



資料：青森県自動車会議所「車種別登録・届出台数」、日本自動車販売協会連合会「自動車統計データ」

(2-5) 住宅建設

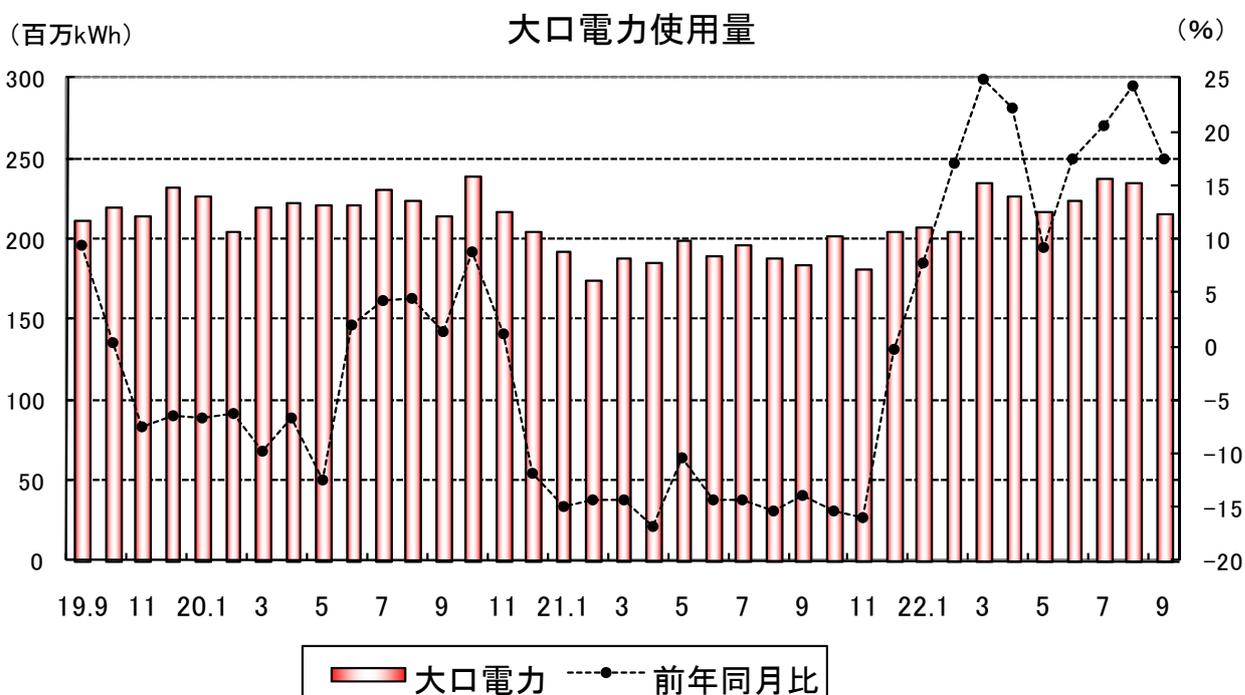
平成22年9月の新設住宅着工戸数は506戸で、前年同月比11.5%増となり、2ヶ月連続で前年同月を上回った。貸家、分譲住宅などが減少したものの、持家が増加したことによる。



資料：県建築住宅課「建築着工統計」、国土交通省「建設統計月報」

(2-6) 電力使用量

平成22年9月の大口電力使用量は2億1,600万kWhで、前年同月比17.5%増となり、9ヶ月連続で前年同月を上回った。



資料：東北電力(株)青森支店「電力需要実績」

(3) 青森県景気動向指数

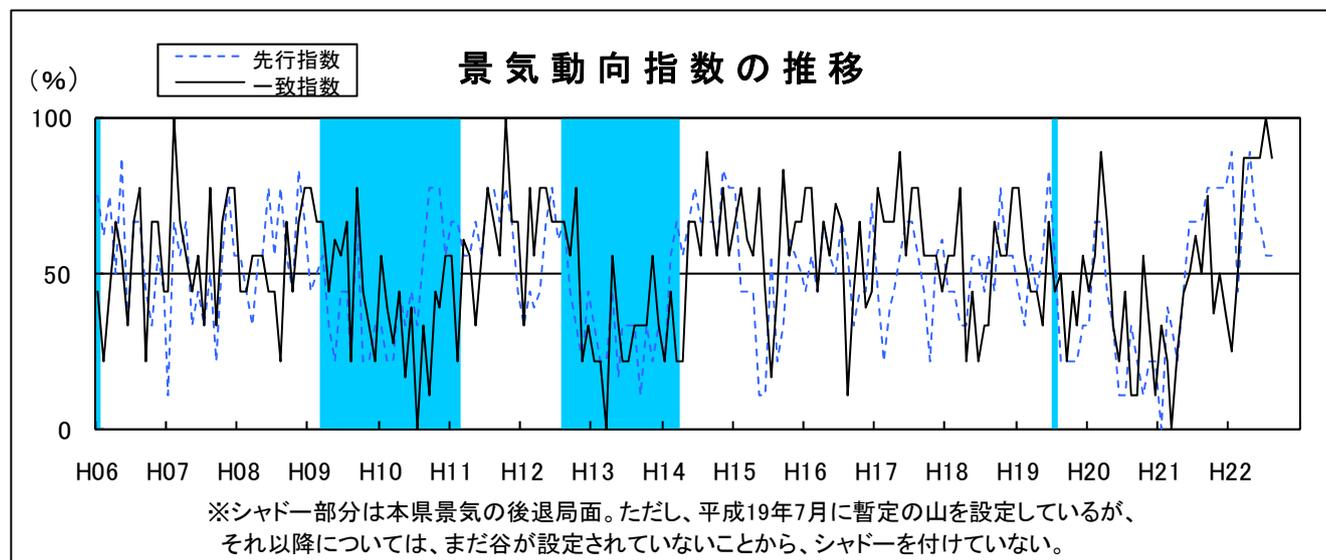
平成22年8月の青森県景気動向指数は、先行指数55.6%、一致指数87.5%、遅行指数50.0%となった。

先行指数は、6か月連続で50%を上回った。

一致指数は、6か月連続で50%を上回った。

遅行指数は、2か月ぶりに50%を上回った後50%となった。

8月の一致指数は、消費、生産、雇用関連等の指標がプラスになったことから、50%を上回った。



●個別系列の動き（各指標は季節調整等を行い、5ヶ月前と比較しています）

プラスの指標		マイナスの指標	
先行系列（9指標中5指標がプラス）			
乗用車新車登録届出台数	2か月連続	生産財生産指数	2か月連続
新規求人倍率（全数）	3か月ぶり	入職率（製造業）	3か月連続
所定外労働時間指数	14か月連続	建築着工床面積	6か月ぶり
新設住宅着工床面積	3か月連続	企業倒産負債額	2か月連続
中小企業景況D I	5か月連続		
一致系列（8指標中7指標がプラス）			
大型小売店販売額（既存店）	7か月連続	日銀券月中発行高	3か月ぶり
鋳工業生産指数	6か月連続		
電気機械生産指数	5か月連続		
大口電力使用量	8か月連続		
有効求人数（全数）	7か月連続		
総実労働時間数（全産業）	2か月連続		
海上出入貨物量（八戸港）	6か月連続		
遅行系列（6指標中3指標がプラス）			
常用雇用指数（製造業）	12か月連続	勤労者世帯家計消費支出（実質）	2か月ぶり
単位労働コスト（製造業）	2か月連続	1人平均月間現金給与総額	2か月ぶり
輸入通関実績（八戸港）	2か月連続	青森市消費者物価指数（帰属家賃除く）	2か月連続

資料：県統計分析課「青森県景気動向指数月報」

※一致系列の物流関連指標「東北自動車道IC利用台数」については、平成21年3月28日から実施された「休日のETC特別割引」（料金上限1,000円）と、平成22年6月28日から実施された「高速道路の無料化社会実験」（青森道・八戸道）による影響を受けるため、当面の間、判定に用いないこととする。

(4) 青森県景気ウォッチャー調査

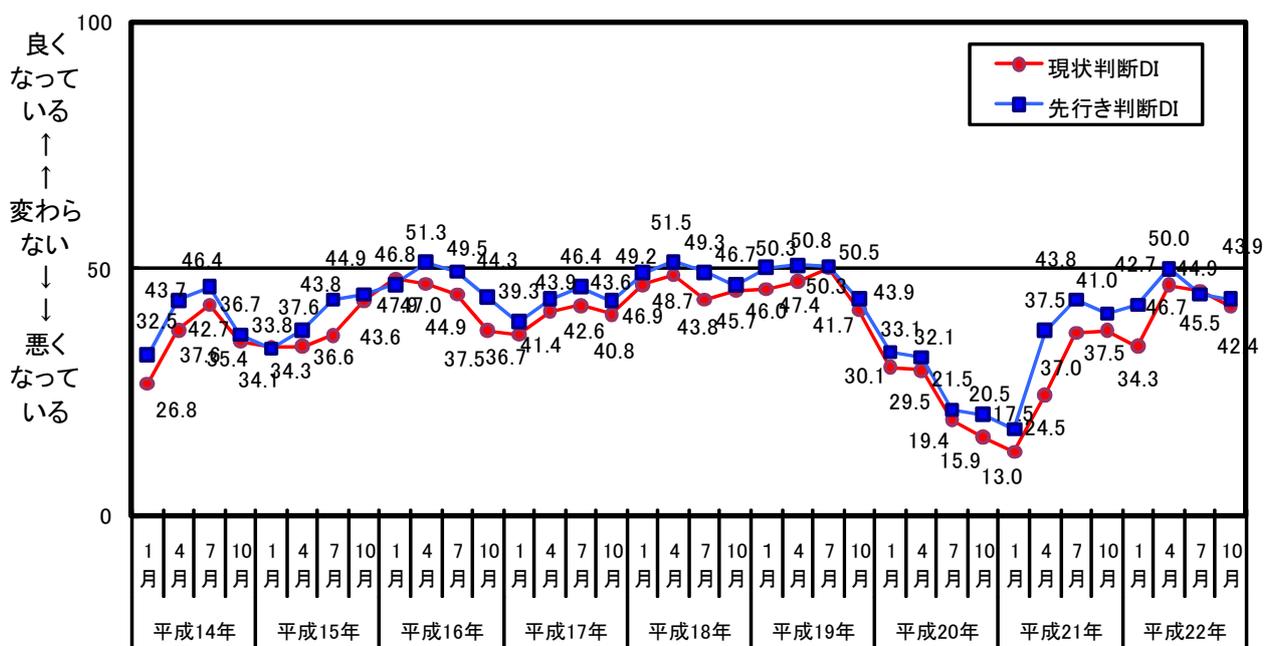
平成22年10月期の景気ウォッチャー調査は、10月1日～10月18日を調査期間とし、回答率は99%となった。

3か月前と比べた景気の現状判断DIは42.4で、前期調査を3.1ポイント下回った。

3か月後の景気の先行き判断DIは43.9で、前期調査を1.0ポイント下回った。

10月期は、景気の現状判断DI、先行き判断DIともに前期を下回り、現状判断DIは13期連続、先行き判断DIは2期連続で、横ばいを示す50を下回った。

景気現状判断DI・先行き判断DIの推移



● 3か月前と比べた景気の現状判断

動 向	<p>前期調査と比べると、「やや良くなっている」が9.1ポイント減少、「やや悪くなっている」が7.0ポイント増加したことにより、全体では3.1ポイント下降の42.4となり、景気の横ばいを示す50を13期連続で下回った。</p> <p>判断理由をみると、エコカー補助金が終了し、車を買替える人がいなくなった、夜や週末でも街に人が少なく静かだ、悪い状態がずっと続いているという声があった。一方で、求人広告に動きが見られる、猛暑の影響で売上が伸びたという声もあった。</p> <p>前期調査と比べて、東青地区でポイントが増加、津軽、県南、下北地区でポイントが減少し、全地区とも、景気の横ばいを示す50を下回った。</p>
--------	---

● 3か月後の景気の先行き判断

動 向	<p>前期調査と比べると、「変わらない」が7.1ポイント減少、「やや悪くなる」が2.0ポイント、「悪くなる」が3.0ポイント増加したことにより、全体では1.0ポイント下降の43.9となり、景気の横ばいを示す50を2期連続で下回った。</p> <p>判断理由をみると、一次産業の割合が大きい青森県で、猛暑の影響が農水産物に出ることへの懸念、新幹線全線開業への盛り上がりにかけているという声があった。一方で、年末年始の経済の動き、新幹線全線開業に期待する声もあった。</p> <p>前期調査と比べて、東青地区でポイントが増加、津軽、県南、下北地区でポイントが減少した。東青地区では景気の横ばいを示す50を上回り、津軽、県南、下北地区では50を下回った。</p>
--------	--

● 3か月前と比べた景気の現状判断理由

- 緊急雇用対策などが影響して、短期的な雇用の確保はされていると思うが、今後の対策として長期的な効果を得るためのものを期待する。(人材派遣=東青)
- タクシー業界は、生き残りをかけた各社のいろんなサービス・割引が行われていますが、企業努力がむくわれていない現状です。他の業種でも同じような状況との話を聞きます。(タクシー=東青)
- 働き場所が無い。求職者がハローワークに行っても募集している企業がとても少ないとの事。ハローワークからも来年卒業見込みの生徒が大変だとお願いの電話が前より多い。(ガソリンスタンド=津軽)
- 雇用、所得環境の改善感じられない。消費者の生活防衛意識は依然として強い。旅行関係でも低価格志向は根強い。(旅行代理店=県南)
- 来店間隔が広く、我慢してからようやく来店されます。店販品もなかなか渋くなっています。(美容院=県南)
- たばこまとめ買いで一時的に売上げアップしたが、そのほか特にかわりはない。(コンビニ=下北)
- △農家の所得の減少。生活の防衛のため金を使わない。(衣料専門店=津軽)
- △企業の資金繰りが悪化している。(経営コンサルタント=東青)
- △売場店頭での動きがにぶい。また週末の飲食街の人の出が以前と比較して少ない。(飲料品製造=県南)
- ×円高による受注減、エコカー補助金終了により、車載関係の受注減など、受注が急激に落込んでいるため。(電気機器製造=津軽)

● 3か月後の景気の先行き判断理由

- ◎新幹線効果で購買力も上がると思います。(観光名所等=東青)
- 新幹線開業、ワ・ラッセオープン等、目に見える形での動きがあることにより、重い腰を上げるだろうと期待も込める。(広告・デザイン=東青)
- 今年12月4日に東北新幹線が青森まで延伸され、本地域の観光客や帰省客等の増加が見込まれ、多少地域経済に貢献するのではないだろうか。過去2002年12月の東北新幹線の八戸までの延伸時にもプラスの効果があった。(人材派遣=津軽)
- この先当分維持出来る仕事を抱えているが、これも奇蹟に近い事。(設計事務所=東青)
- 地方の経済・雇用状況は都市部程良くはなっていない。デフレから脱却できていない現状においては、3ヶ月程で景気が上昇する見通しには達しないと思われる。(商店街=津軽)
- 新幹線が来ても、県南の方には影響ないと思う。逆に、現状維持が大変かも？(タクシー=県南)
- 円高・株安とニュースで流れますが、本地域にはあまり影響は無いと思います。原油高で灯油、ガソリンの値上がりが無ければ、本地域の経済は比較的変動は無いのではないのでしょうか？(一般小売店=下北)
- △一時的ではなく、ある程度長期的に景気が好転する為には、地元の雇用拡大、安定が不可欠ですが、全く期待が持てません。(百貨店=東青)
- △猛暑の影響で生鮮食品の相場高と入荷数量が減っている為。家計を圧迫する部分も考えられる。(スーパー=県南)
- ×工事見込件数等が現在も少ないが、今後も増える要素はなく、更に悪くなると思われる。(広告・デザイン=津軽)

記号の意味:◎良くなっている、○やや良くなっている、□変わらない、△やや悪くなっている、×悪くなっている

資料：県統計分析課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」